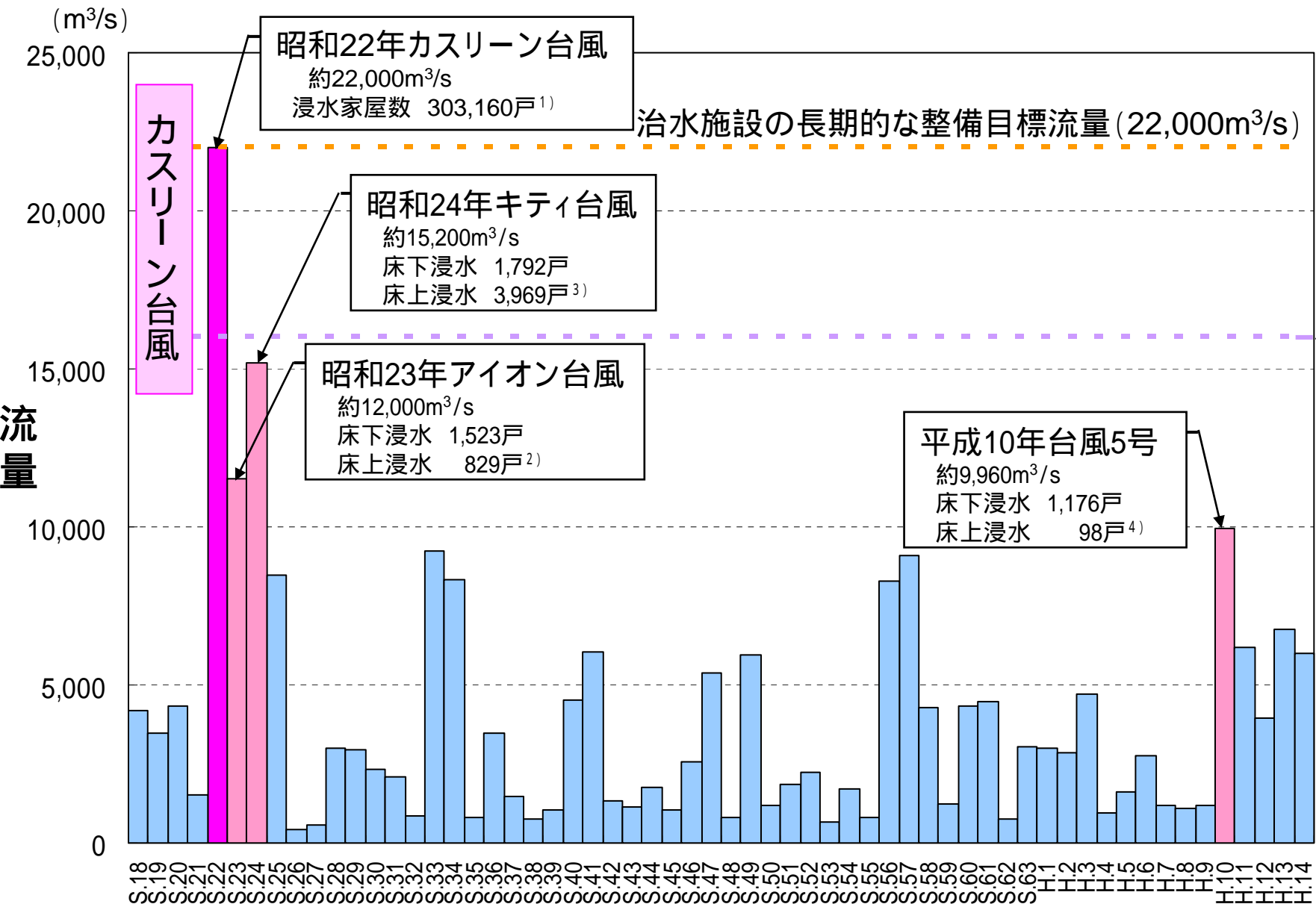


# 浸水想定についての基本的な考え方(案)

## 補足説明資料

# カスリーン台風規模の洪水が発生すると氾濫する可能性がある(利根川)

## 利根川(群馬県伊勢崎市八斗島地点)における年最大流量



現状の治水施設的能力

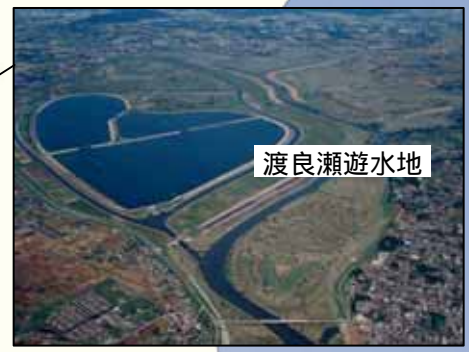
S33以降はダムで洪水調節を行っているが、ダムが無かった場合に下流に流れてくる洪水流量に換算している(八斗島地点)  
 1) 1都5県の合計、利根川百年史 2) 利根川本川筋、渡良瀬川の合計値、利根川百年史 3) 渡良瀬川、鬼怒川、江戸川の合計、利根川百年史 4) 水害統計、国土交通省

# 利根川における戦後の治水事業



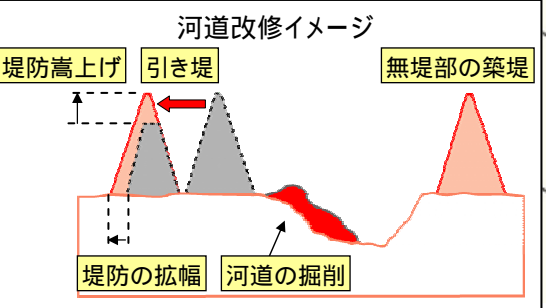
矢木沢ダム

凡 例	
	既設ダム
	整備中ダム
	遊水地・調節池
	堀削・浚渫
	築堤（高潮）
	引き堤
	堤防拡幅及び堤防強化
	堰・水閘門



渡良瀬遊水地

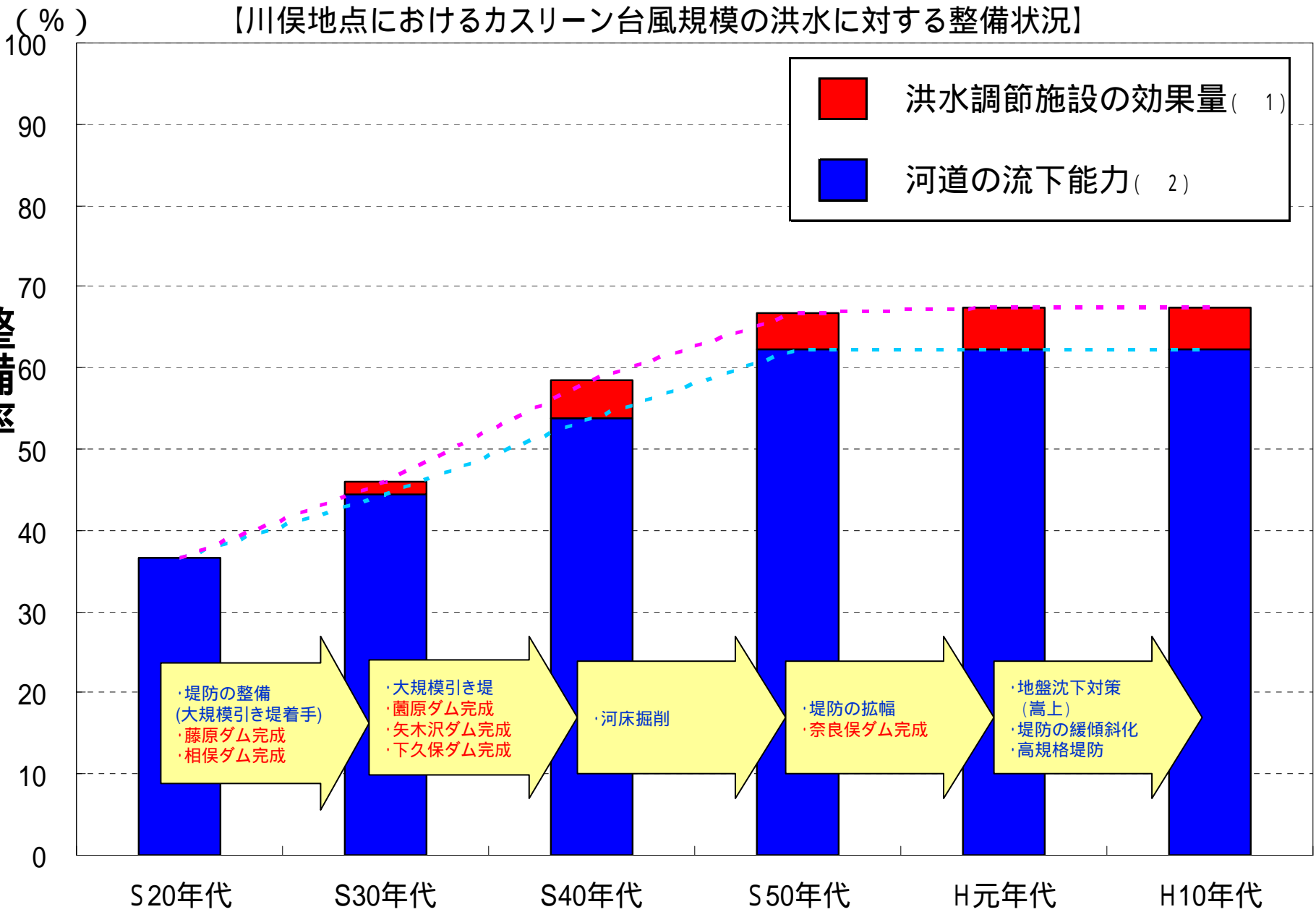
渡良瀬川合流点下流部の引堤



# 利根川における治水事業の効果 (川俣地点：群馬県明和町)

【川俣地点におけるカスリーン台風規模の洪水に対する整備状況】

整備率



・堤防の整備  
(大規模引き堤着手)  
・藤原ダム完成  
・相俣ダム完成

・大規模引き堤  
・園原ダム完成  
・矢木沢ダム完成  
・下久保ダム完成

・河床掘削

・堤防の拡幅  
・奈良俣ダム完成

・地盤沈下対策  
(高上)  
・堤防の緩傾斜化  
・高規格堤防

S20年代

S30年代

S40年代

S50年代

H元年代

H10年代

1 洪水調節施設の効果量は、利根川の長期的な治水施設の整備目標である200年に1回の頻度で発生する洪水時における現況の洪水調節施設の全効果量と全洪水調節容量の比率により、各年代において完成している洪水調節容量から算出。(「200年に1回の頻度で発生する洪水」が、30年の間に発生する確率は14%)

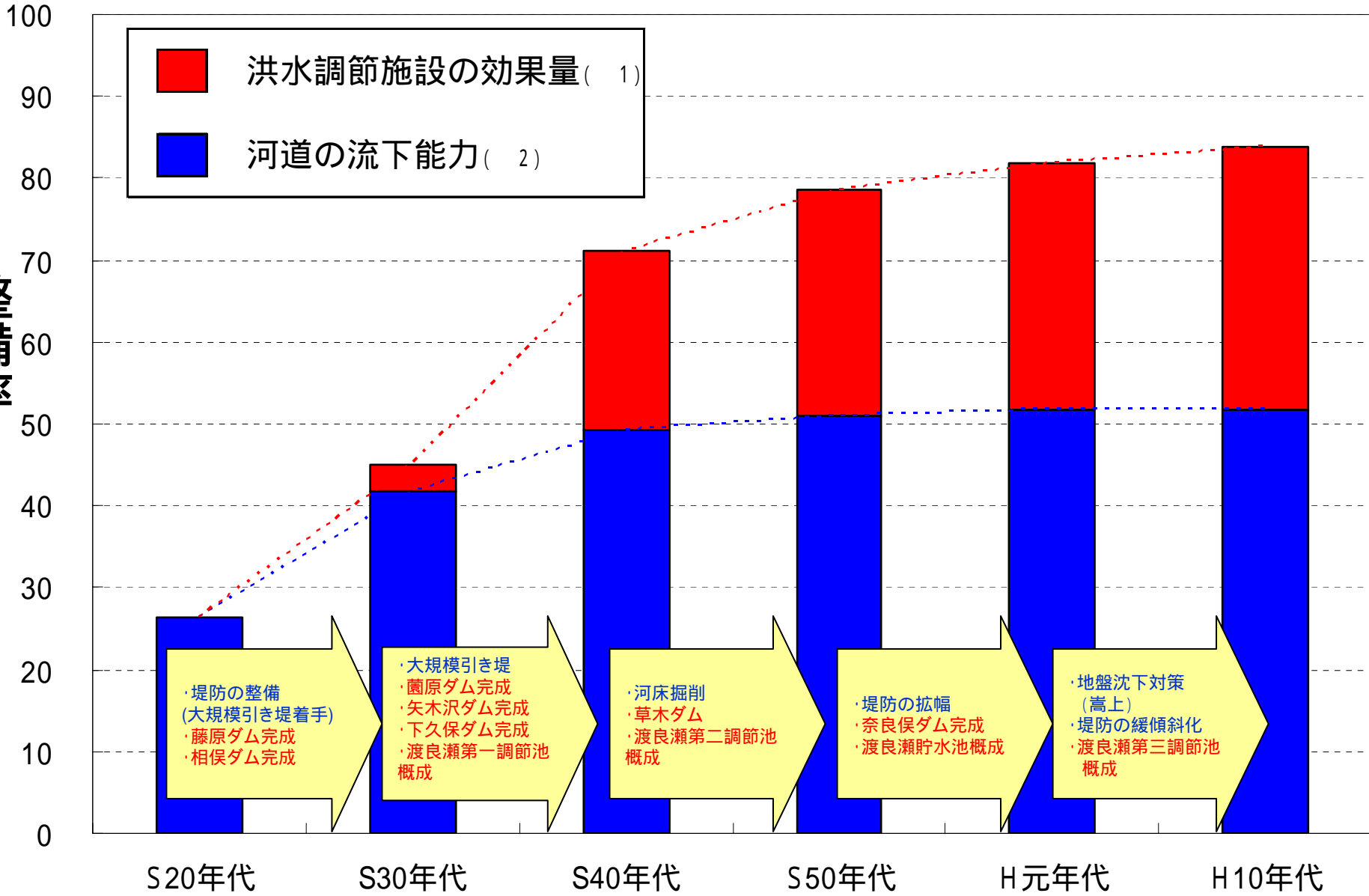
2 河道の流下能力は現況河道の流下能力と流下断面積の比率により、各年代の河道の流下断面積から算出

# 利根川における治水事業の効果 (栗橋地点: 埼玉県栗橋町)

【栗橋地点におけるカスリーン台風規模の洪水に対する整備状況】

整備率

(%)



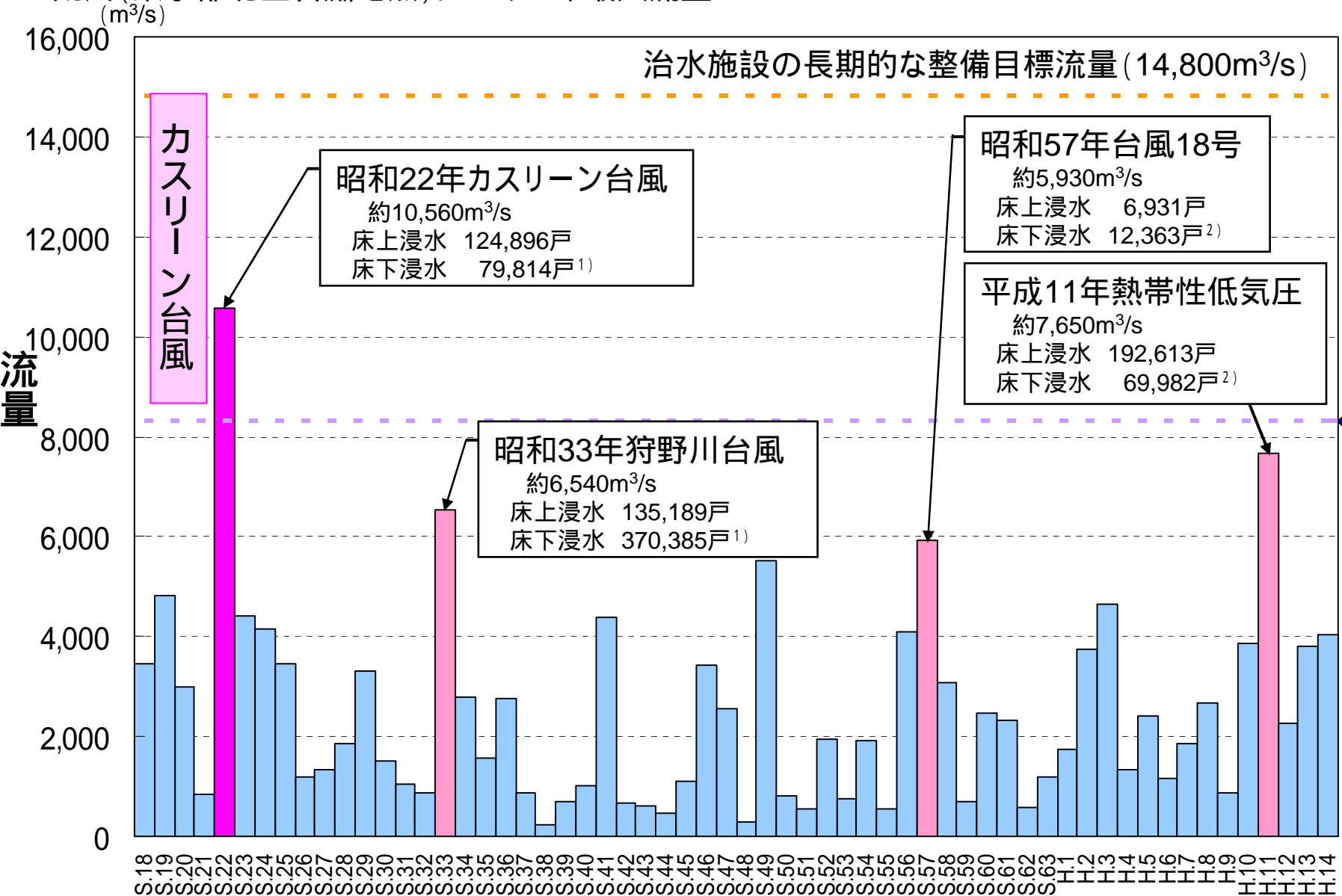
- S20年代: 堤防の整備 (大規模引き堤着手)、藤原ダム完成、相保ダム完成
- S30年代: 大規模引き堤、園原ダム完成、矢木沢ダム完成、下久保ダム完成、渡良瀬第一調節池概成
- S40年代: 河床掘削、草木ダム、渡良瀬第二調節池概成
- S50年代: 堤防の拡幅、奈良俣ダム完成、渡良瀬貯水池概成
- H元年代: 地盤沈下対策 (高上)、堤防の緩傾斜化、渡良瀬第三調節池概成

1 洪水調節施設の効果量は、利根川の長期的な治水施設の整備目標である200年に1回の頻度で発生する洪水時における現況の洪水調節施設の全効果量と全洪水調節容量の比率により、各年代において完成している洪水調節容量から算出。(「200年に1回の頻度で発生する洪水」が、30年の間に発生する確率は14%)

2 河道の流下能力は現況河道の流下能力と流下断面積の比率により、各年代の河道の流下断面積から算出

# カスリーン台風規模の洪水が発生すると氾濫する可能性がある(荒川)

荒川(東京都北区岩淵地点)における年最大流量



現状の治水施設の能力

年

S36以降はダム等で洪水調節を行っているが、ダム等が無かった場合に下流に流れてくる洪水流量に換算している(岩淵地点)

1)熊谷気象台HP、東京市史稿、東京都水害史、東京都水防計画 2)水害統計、国土交通省

# 荒川における戦後の治水事業

浦山ダム



二瀬ダム



荒川第一調節池



荒川第一調節池 (H15年完成)

岩淵地点

高規格堤防



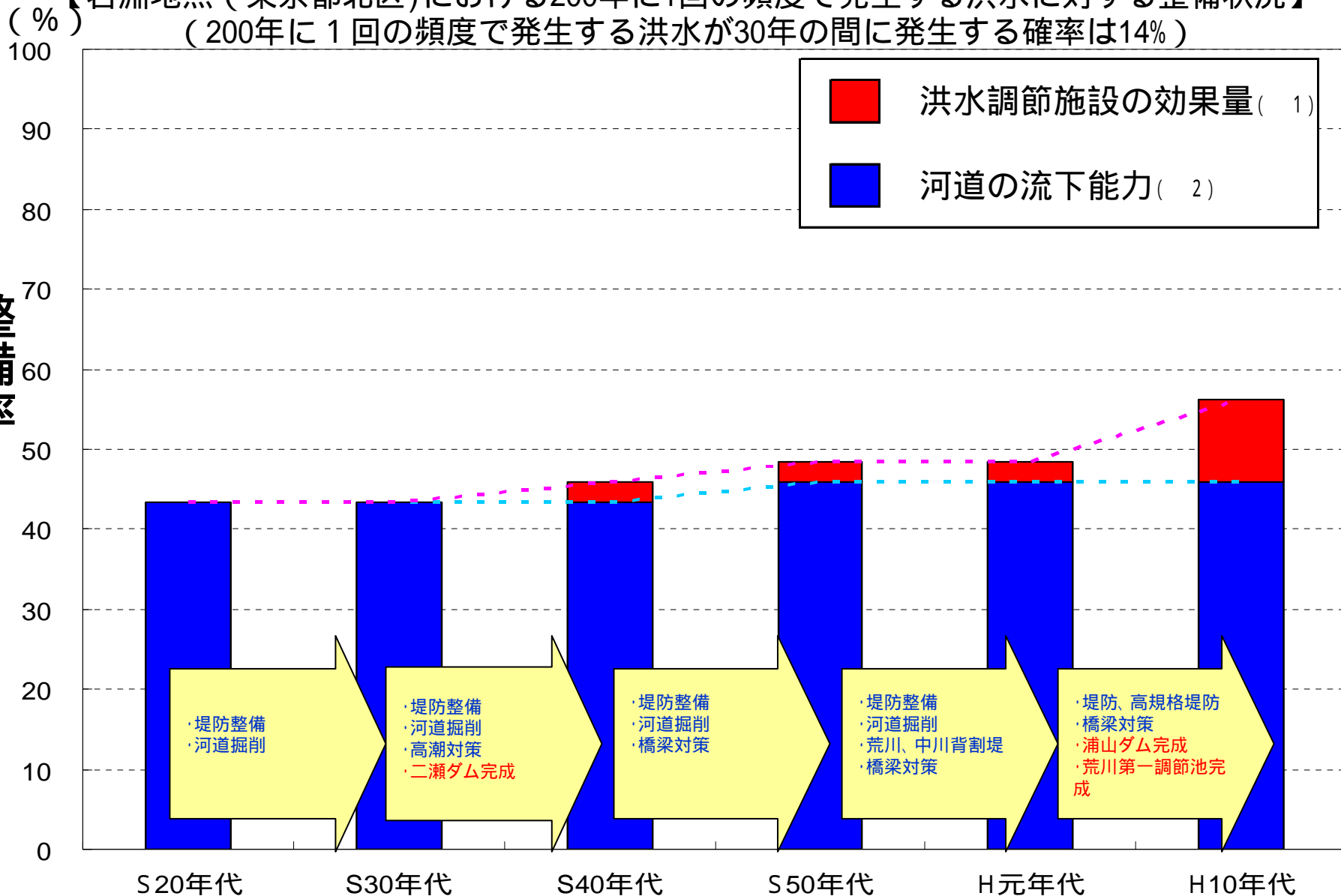
秋ヶ瀬取水堰

岩淵水門

# 荒川における治水事業の効果

【岩淵地点（東京都北区）における200年に1回の頻度で発生する洪水に対する整備状況】  
 （200年に1回の頻度で発生する洪水が30年の間に発生する確率は14%）

整備率



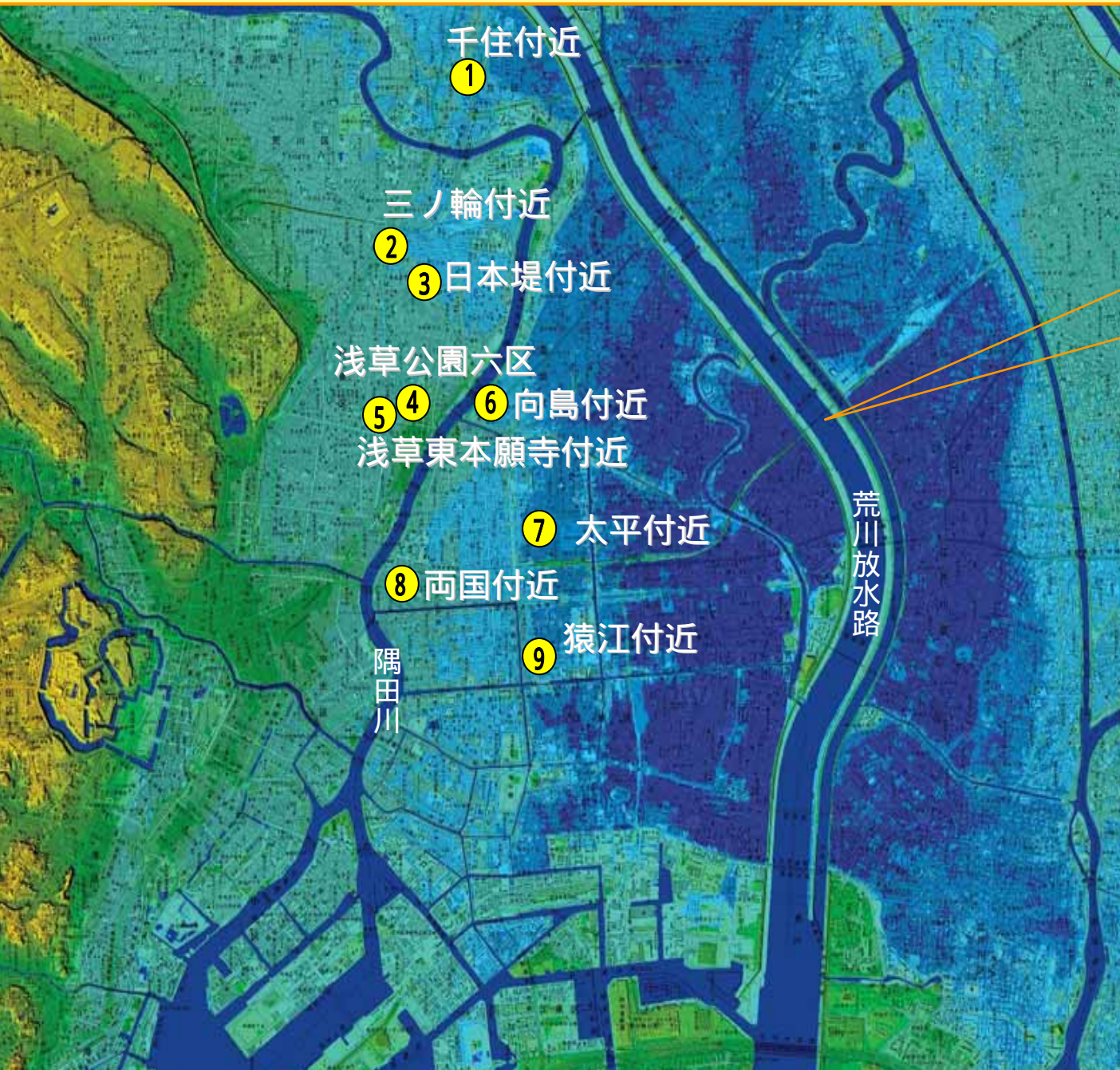
1 洪水調節施設の効果量は、荒川の長期的な治水施設の整備目標である200年に1回の頻度で発生する洪水時における現況の洪水調節施設の全効果量と全洪水調節容量の比率により、各年代において完成している洪水調節容量から算出。

2 河道の流下能力は現況河道の流下能力と流下断面積の比率により、各年代の河道の流下断面積から算出



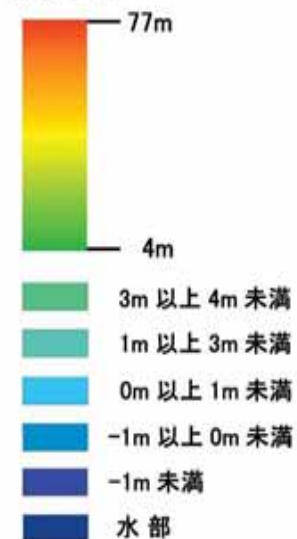


# 明治43年大洪水の絵葉書の撮影箇所

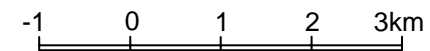


荒川放水路は、明治43年の大洪水をきっかけに、翌明治44年に着手し、昭和5年に完成。

## 標高値



1:25,000デジタル標高地形図「東京区部」を使用。



国土地理院作成基図に加筆

# 屋上破壊避難(足立区千住付近)



難被イカ破上屋(町住千) 況惨水洪大月八年三十四治明





(明治四十三年八月) 大洪水(況) 吉原土堤ヨリ千住方面ニ浸水スルノ状



〔一其〕 區六園公草淺

（最實ノ水洪水京東月八年三千四三治明）



水浸、前寺願本東草浅 月八年三十四治明

むこうじま うしのごぜん  
向島牛の御前付近(墨田区向島)



近附前御ノ牛島向 況實ノ水洪水月八年三十四治明



明治43年大洪水

避難船 ほんじょたいへいちょう 本所太平町の惨状(墨田区太平)



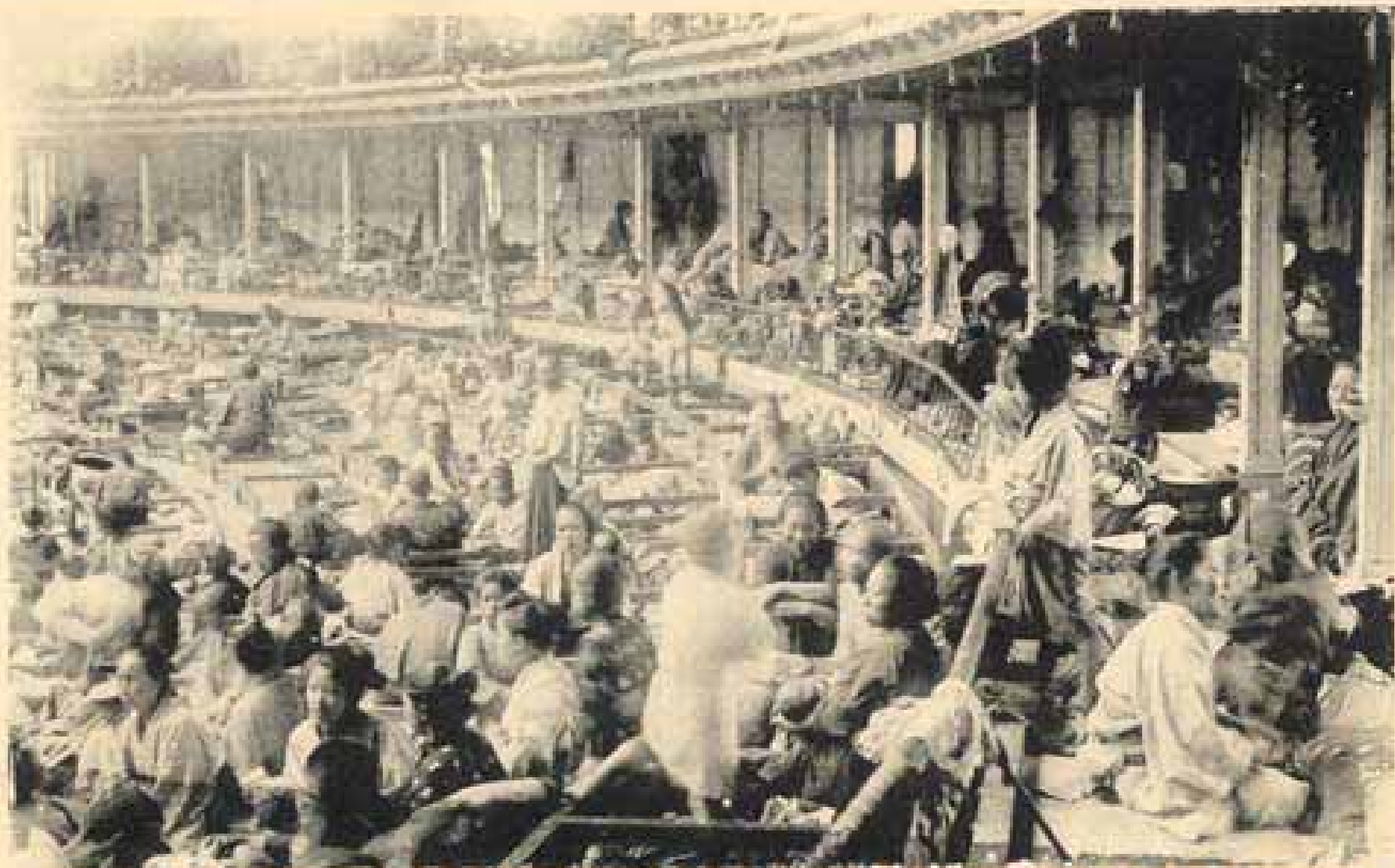
A DELUGE AT TOKYO, 1910

(明治三十四年八月大洪水本所町惨状) 避難船

明治43年大洪水

惨害を蒙りたる避難者

国技館收容人員一万五千人 嗚呼人生最大の惨事(墨田区両国)



事惨恐大最の生入嗚呼人千五方壹員人存収館技國者種述るたり續を害慘(都帝の水床大有暫天栄年十六)



町江猿川深

状態の水洪水東京。月八年三十四明治